

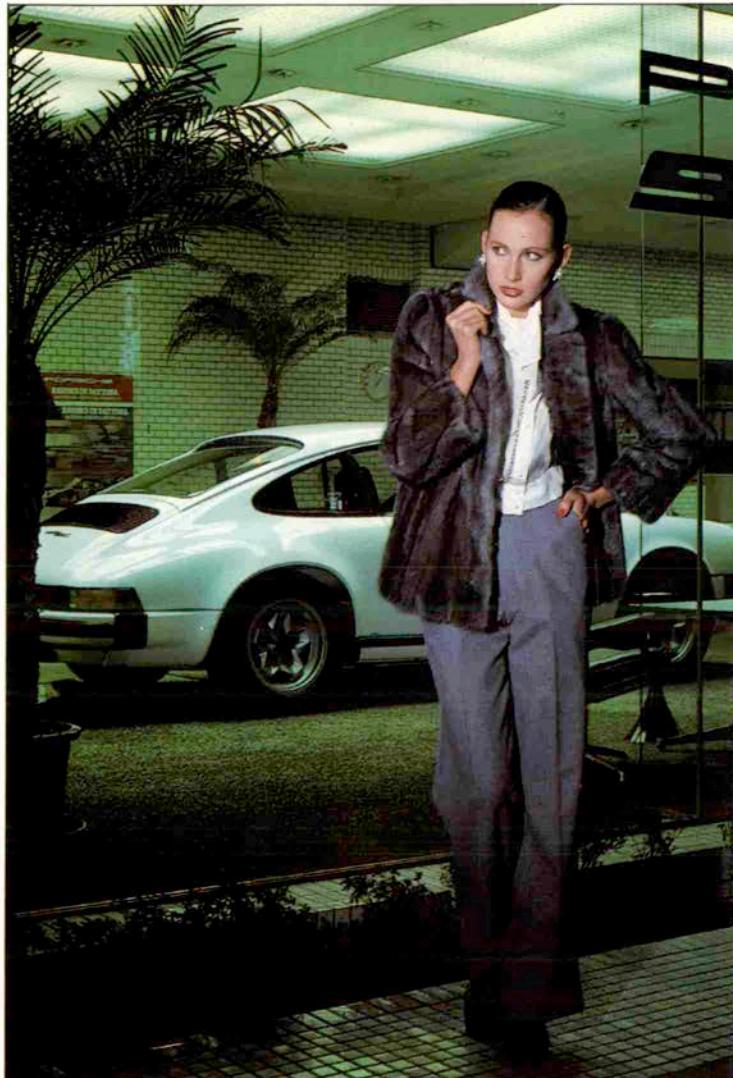
# 神戸の風色

KOBE•FUSHOKU

堀内 初太郎 NO.27







# *Elegance in Kobe*

新しい自分を発見するために  
本物をセレクトするこころを  
磨いてゆきたい

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ミラタ

さんちかレディースタウン

神戸市中央区三宮町1丁目10番1号

☎(078) 391-3886

---

本社

神戸市中央区元町通6丁目7番8号 明邦ビル

☎(078) 341-8041代



華やかなパリの  
エスプリをお届けする  
Windsor'82年春夏物 Collection

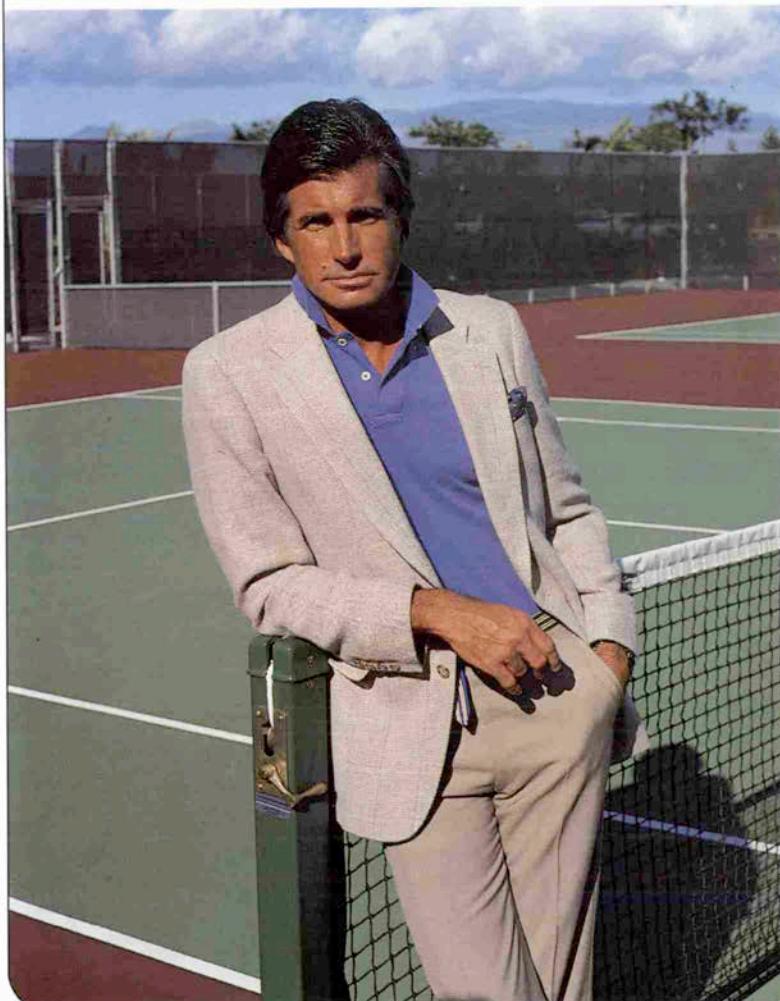


クチュール&ブティック

ウインザー  
山内易絵子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目  
さんプラザ2F TEL (078) 331-7952

カジュアルライフに男らしさと個性が光る。



# Melbo

アダルト・ペア・ブティック

神戸異人館通店

北野坂異人館通り

☎ (078) 222-2581

エグゼクティブ・サロン

神戸ポートピア・ホテル店

ショッピングアーケード バレビアンカ 2F

☎ (078) 302-1868

トータルメンズ・ショップ

須磨パティオ店

須磨パティオ 1番館 2階

☎ (078) 791-7177

伝統の心を縫う  
手作りの風格



洋服ノ粹

渡邊

〒651 神戸市中央区磯上通 8-1-32 グリーンビル1F TEL (078) 251-8501 代  
東京—大阪—神戸—姫路

日持ちのする上生菓子

# 沙羅双樹

そう

じゆ

新発売

## 沙羅双樹

しつとりと甘さをおさえた  
大納言小豆の羊かんにくる  
まつて大粒の丹波栗が入っ  
ています。郷愁さそり淡い  
甘味が、なつかしく心をと  
らえます。

## 菊のうにけ

厳選された丹波栗の風味を  
最高に生かした栗きんとん。  
つややかな姿に包みこまれ  
た白い求肥が、まるやかな  
味をいつそうひきたててい  
ます。

## 沙羅双樹

花 紋

山芋をすりこんだ薯蕷羹に  
大納言小豆をあしらった粹  
な和菓子、上品な風味とと  
もに、日本的情趣がやさし  
く伝わります。

## 菊のうにけ

花 紋

花 紋

花 紋

沙羅双樹詰合  
9コ入 1500円



お好みに合わせて各種お詰め合せ致します。(1000円~5000円)

神戸市中央区元町通三丁目三番五十五  
電話 (078) 321-5555

新月堂





glass-water  
Kajii Uematsu

182180178164163 158 152148146145144142140138136134 130 123121118117104 8684767472 7068 62 5653 4240386333029181615 9  
セカンドカバー／僕の見た神戸（39）／西村功  
表紙／小畠良平  
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道するべ  
これは神戸っ子の手帳です

これは神戸を愛する人々の雑誌です。  
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道するべ  
これは神戸っ子の手帳です

3月号目次 ● 1982・NO・251

セカンドカバー／僕の見た神戸（39）／西村功

美音第11載連地隨第私神エコフアーツ部回

●ハイセンスなショッピング・ストリート●元町1番街●



# 京菓子司二つ茶屋が 3月下旬新築オープン

## ●ごあんない

1F/京菓子・喫茶・大衆和菓子実演販売  
和菓子ひとすじに65年。老舗のまろやかで上品な風味をお届けいたします。

## 2F/とんかつ・柚おめん・そば

名物とんかつに柚おめん、そばなど多彩なメニューを加えました。お気軽に滋養たっぷりの本格派の味をお楽しみください。すきやき、しゃぶしゃぶ、かにすき、うどんすき、ぼたん鍋などもあります。各種会合にもご利用ください。

## ●ごあいさつ

れんが色の舗道とルナケードで神戸っ子に親しまれている元町1番街に御菓子司二つ茶屋が新築オープンいたします。

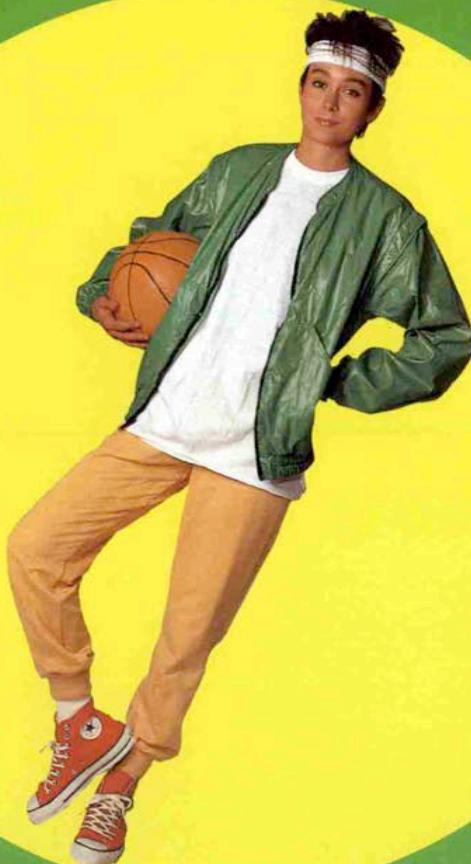
厳選された最高級の材料を用い、アルカリ性イオン水を全商品に使用いたしております。真心こめて作りあげていく伝統の和菓子の味を守り続け、より一層努力を重ねていきたく存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

株式会社二つ茶屋社長  
奥田 康雄

株式会社 **二つ茶屋**

〒650 神戸市中央区元町通1丁目8番4号 TEL(078)331-0755(代)

美しくなることは、オトナになることです。



|             |                |
|-------------|----------------|
| リザ・サロン      | ケルラン           |
| ルイ・ミッシェル    | 東京屋            |
| CABIN       | 新宿・高野          |
| フランス・アンドルヴィ | BONフカヤ         |
| クロード・レーマ    | ザ・コレクション       |
| ダイアナ        | ココ山岡           |
| Pia         | ブランコ           |
| ルベール        | ホットマン          |
| ランブ         | エタム            |
| 美屋          | 三愛             |
| CAN         | 並説078(332)1698 |

おかげさまで6周年

春の公園市セール

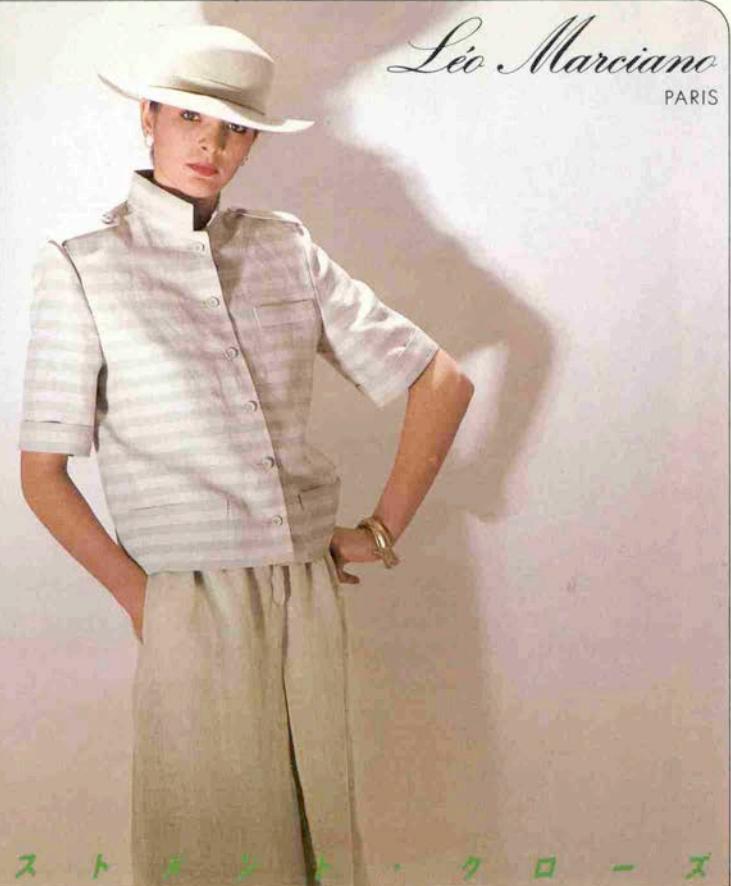
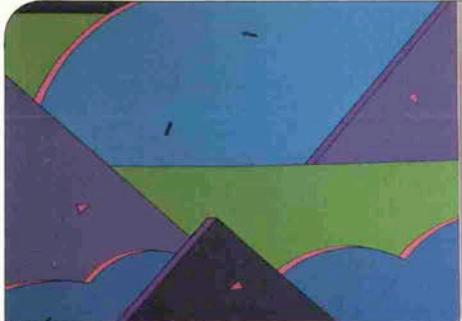
3/20(土) - 4/4(日)

FASHION  
PARK

神戸三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 AM11:00 - PM8:00



*Léa Marciano*  
PARIS

パリのインベストメント・クローズ

レオ・マルシーノ

特選品サロン 3階<sup>△</sup>パレロアイアル、にデビュー。

シルク素材を中心にリネン・コットンなど選りぬきの天然素材によるコーデ(ネイト・ストーリー)。

知性・美とエレガンスあふれる'82春・夏コレクションが発見見えします。

ブレタボルテならではの普ごちの良さと見事なシルエットはアダルトな女性のインベストメント・クローズとして脚光を浴びています。

新装なったサロンで彼のクリエイションにふれてください。

'82春 そごうのファッションテーマ  
自然・私・好



神戸三ノ宮  
そごう  
神戸 (078) 221-4181

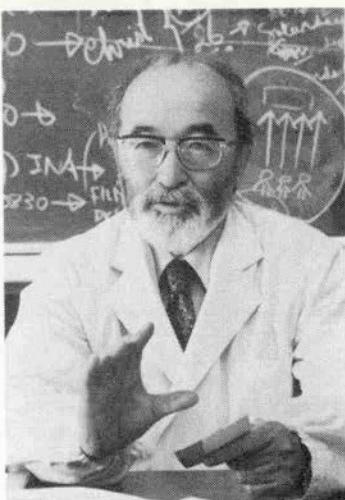
国際ロータリーの国際理解賞を昨年6月にいただいた

のを機会に、私の経験から提唱させていただいたのが、  
P H D 運動です。

# あなたの10%を P H D 運動に

## ☆私の意見

私が20年暮したネバールを中心に、アジアでは75%の人々がギリギリの生活をしています。20年前と比べると何と日本では節約の美德が消え失せ、消費、使い捨てをしないと経済が成長しないということが当り前のようになっています。ジェット機で2、3時間のところでは、節約をしてお互いに分け合い、自分が我慢して自分より困っている人たちのために助け合つていかなければならないという現状です。しかし、子供や若者たちはイキイキしています。そんなアジアの国々では、日本の工業產品があふれています。つまり日本から買って下さっているおかげで、日本は今の快適な暮らしができるのです。



△神戸大学医学部教授▽

岩村 昇

アジアでは、自分たちの貧困を解決する経済開発をし、栄養失調の問題を解決する食糧生産のための人材養成をしなければなりません。そのお手伝いをするために、私たちは、今まで自分のためにしか使っていなかつた時間や知能、お金などの10%をささげよう、平和 (Peace)、健康 (Health)、人間開発 (Human Development)、のために10%をささげて、アジアの草の根のリーダー、ボランティアの人材養成訓練に協力しようというのがP H D 運動です。今夏、アジアから農業青年を迎え、多紀郡篠山町の研修施設「農文塾」で勉強していただく予定です。そこで農業の技術だけでなく、経営のノウハウも身についていただき、国に帰つて自分の農業の技術内容、経営内容を高め、経済的に自立するだけでなく、その成果を自分たちの地域に10%おすそわけをする草の根のボランティアになつてもらいたいということです。10%をささげる運動から、生きることは分かち合うこと、という人間本来の生き方を取り戻し、アジアの人たちと共に生きる21世紀を作りたいと思っています。

★月刊神戸つ子21周年記念文化賞／第11回受賞者発表

# BM ブルー・メール賞

副賞各拾万円  
海の女神ブロンズ  
新谷秀紀制作

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸つ子」はこの3月号で21周年を迎えました。

これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸つ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第11回「ブルー・メール賞」（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行つたうえ、左記の5人の方々に賞（彫刻家新谷秀紀氏による海の女神のブロンズ像）をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に拾万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思ひます。

今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

△授賞式は4月8日（木）神戸国際展示場／月刊神戸つ子21周年記念パーティで行います△

## □文学部門



選考

伊勢田史郎・君本昌久・安水稔和

季村  
敏夫

△詩人△

季村敏夫の詩は、容赦なく、おのれの感情を疾走させている。無論そこには、はははらする位、思い入れのあることも免れ難いが、必死になって生きようとする、詩の在をとらえていて、現代詩には稀な感情の復権を迫っているところが魅力的である。  
(君本昌久)

## □音楽部門



選考

吉村一夫・柴田仁・小石忠男

選考

いかにも神戸つ子らしい神戸つ子のピアニスト。八九年はよく勉強しよく活躍した。リサイタルもあったが、訪問自子を神戸にひっぱつて来て、この大ハーテランとよく渡りあっていた、その伊藤ルミを格別に評価したい。

△ピアニスト△

(柴田仁)

美術部門

委選考

赤根 和生・増田

洋・草野 拓郎・乾 由明

舞台藝術部門

10

委員會

佐野 漣箕・名生 昭雄・岡田 美代

□ ファッション部門

委選考

富福  
芳美

・森本  
泰好・藤本ハルミ・小泉美喜子



木下佳通代

共 6

木下佳通代さんの作品が、個性的の豊さと普遍性とを兼ね備えているのは、彼女の作品が繊細な感覚の表象であると共に、知性が生みだす強烈な造型であるからです。これからさらに深めざしに広げることで、ブルーメール賞の評議會を高めてくれると思います。

★ブルー・メール賞協賛企業

太田タマコ  
アートフラワー・  
デザイナー

太田タマコさんは、ただ単にアートフラワーの作家というのではなく、彼女独特のファンタジイの世界を、布をぬぎ型を創り、舞台空間に花ひらかせて見せてくれます。彼女は舞台の魅力にとらわれたばらしいアーチストだとおもふのです。

（藤本ハルミ）

THE KOBECCO 21<sup>th</sup>

月刊神戸っ子創刊21周年記念パーティへのお誘い

# '82 世界の酒まつり

とき 4月8日(木) 午後6時～8時30分  
受付 午後5時30分

ところ 神戸国際展示場 2F  
〈ポートライナー市民広場駅西〉

かいひ 8,000円 〈飲んで食べて踊って〉

## プログラム

### ★第11回ブルーメール賞授賞式

受賞者 季村 敏夫(文学部門) 伊藤 ルミ(音楽部門)  
木下佳通代(美術部門) 加藤きよ子(舞台芸術部門)  
太田タマコ(ファッション部門)

### ★昭和57年度酒徒番附表彰式

横綱 田崎俊作 田辺聖子  
張出横綱 畑崎廣敏 中内 力 鴨居 玲 筒井康隆

### ★SHOW 弘田 三枝子

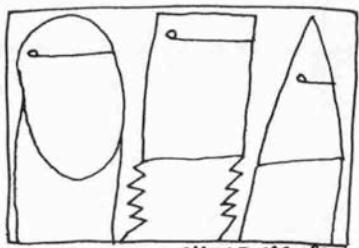
古谷充とザ・フレッシュメン

#### ●お問い合わせ

月刊神戸っ子 / 神戸市中央区東町113-1 大神ビル7F ☎ (078) 331-2246



# 隨想



カット／元永定正

## 懐しや神戸辯

兵庫ことばは何といや

楠本 憲吉

△俳人△



しい少年時代のことばである。

「あいにようかこいにしようか」

「あいに」（時に、稀に）「あおぬく」（あおむく）「あたうるさ

い」「あつたんか」「あっぽん

（帽子）「あとけつ」（先月）「あ

ません」（西洋人の家に働く女中

さん）「いきまほ」「いっこも」（少

しも）「うざうざい」（ぶつぶつ

言う）「ううとこ」（私の家）「う

んど」（たくさん）「えしゅ」（金

持）「おきにはばかりさん」「お

いど」（尻）「おかしん」「おつけ

い」（大きい）「おくもじ」（漬

物）「おくんなはれ」「おちよく

る」（嘲弄する）「おどこ」「おどんぼ」（末の子）「おなごし」（下

女）「おんた」（雄）「おんなしよ

に」「がいがわるい」（都合が悪い）

「かだら」（からだ）「かっこむ」（食う）「からけつ」（何もないと）

があるように、神戸方言というものはたしかにある。繰り返しいうようだが、私にとつてまことに懐

と「かんてき」（七輪）「きずつない」（氣苦労な）「きつちよ」（左利き）「きびしょ」（きうす）「きりもん」（着物）「ぎゅーちち」（牛乳）「きょうび」（今日此の頃）「きりばん」（まないと）「きんの」（昨日）。

「ぐつ」（都合）「くわしん」（菓子）「けやす」（消す）「けんたい」（当然）「こぐちから」（片端から）「こいつい」「こつつお」（御馳走）「こつとい」（牡牛）「こないに」（こんなに）「これほか」「さかちん」「さかとんぼ」「さくい」（脆い）「さつき」（先程）「さらせ」（為せ）「しくさる」（する）「しこたま」（たくさん）「じつきに」（すぐに）「しな」（際）「じょーさん」（沢山）「じょらくむ」（安座する）「しんたく」（分家）「すか（あてはずれ）「ずつない」（苦しい）「せーんど」（長い間）「せぶる」（ねだる）「せんさい」（庭）「たいいがいにしとけ」「たいてやない」「だれど」「だまくらかす」「だんじり」（山車）「だんない」（差支えない）「ちぼ」（掏摸）「ちょーず（トイレ）「ちよか」（おどけもの）「ちよろくさい」「てんこもり」「どーらい」（大變）「どーに」「どだい」「とんちき」（馬鹿）「なにやかし」「なりがわるい」「なんせ」「ねき」（そば）「ねつから」「ねま」「ののさん」（神仏）「はし

「いい」「ぱぱい」「バラス」(砂利)

「ぱんけ」「ひなか」(半日)

「へちん」(手違い)「へらへつ

と」(いくらでも)「ほかす」「ほ

れから」「ほたえる」「まどう」「も

みない」「やせん」(昨夜)「よこ

すっぽ」「らつちもない」「わや」

「なんのこつちや」(何つまらな

いことだ)「行くのんけ」「あい

つ遊んだけつかる」「どつきまわ

したるか」「なにしとん」「いつ

とつてや」。

## 仕事について 島 京子

〔作家〕



昨年初め、作品集(母子幻想・構想社刊)を出してから、二、三の編集者から創作への誘いがあった。

ちょうど、数年前からあたためていた素材があり、この機会に作品化することに決め、夏から書き

すすめていた。

百五十枚ほどのものが、年末にはほぼ出来上がったが、これは第一

稿である。

年来グズの性癖が強まっており、その推こうにあれこれと迷う。なかなか原稿の整理もおぼつかない有様だ。

書き上げたばかりの作品というものは見なれた景色のようで、ここ

ろにつきすぎているため、しばらく目を転じて、感覚を冷やす期間

が必要である。不器用なくせに人

一倍凝り性でもあるので、果して

いつ気に入ったものが出来るか、

待つていて下さる人の期待にそえ

るものができるか、心細くもある。

奥野健男氏は、「おもしろく達

者すぎる」といわれ、構想社の

坂本一亜氏は、「文章のうますぎる

人」と私のことを評される。この

すぎる」という言葉に、私はこだわ

りをもつ。

独自の世界をうまく書けば、作

品世界は堂々と存在価値を示すだ

ろう。今後の作品ではこのすぎる

点を考慮に加えなければならんの

だと思っている。

第一稿の成った作品は、神戸出身者で、途方もない自我、稀有な行動力、それらが一種の光彩となる沖山秀子の生きざまをとりあげてみた。

一つの変った形での教養小説として描いてみたいと考えたわけで

ある。女の目から見た彼女の感動に価

するほどの奔放な性格が現代人に

とつて、遠い存在となつた太古の女の性そのものであると私には思える。それが衰弱し、抑圧された現

代人の性のありようから見れば穹窿(きゅうりゆう)に輝く太陽の

ように、瞠目すべき、はつらつさ

を持つのである。

彼女が無意識に古代人の姿を顕現していることに、私は小説を書くものとしての意慾をそそられたのである。

また、もうひとつ主題として、私は自分の亡くなつた家族についての作品をも書きたいと思つて

いる。

家族の中でも、先年列車事故で

死去した姉のことである。姉につ

いての記憶をたどれば、昭和初期の時代相と家族の姿が必然的に浮かび上つてくる。

ここに納められた幾枚もの記憶の絵は、私にとっては切実なものであり、その作品は深く私の存在にかかわてくるべきものであるだけに、今まで幾度か書きあぐんだのであつたが、どうやらその機が熟しつつあるような気がしないでもない。

小説を書きはじめてから、私は私なりの道を歩んできた。これからも同様であろうが、書くべきことはいつも胸に抱いており、それはあくまでも人にすめられて書

くべきにはあらず、自らの好みに従うのみと思っている。

## 墨と出会い

望月 美佐

（書道家）

人生はあらゆる「出会い」によつて成長する。自然との出会い、人間との出会い、そして物との出会いである。

私が書の世界に住むようになると、数多の調度品の中でも特に身に置かれ、また、愛玩するのには、筆・墨・硯・紙の文房四宝と呼ばれるものである。

第一回日展出品の為に、清水の舞台から飛び降りたつもりで買い

もとめた宋端渓の硯は竹の子型をした可愛いもので、じつと手のひらにのせてみると赤ん坊の肌にふれているような感触がする。

筆は現在、五・六百本にもなるだろうか、羊・狸・鹿・馬・白鳥にパンダ・スカンク・孔雀など動物という動物の毛はほとんど揃えられ、赤ちゃんの頭の毛の筆も十本以上にもなった。

紙も日本の和紙は勿論、中国、韓国、外国へ行くたびに珍らしい紙を買つたり、漉いてもらつたりして、三階の書庫は紙だけ、今に天井が落ちないかと心配である

一月中旬、ちょっとしたことからある人の蔵にねむつて、三百丁あまりの墨を買った。弟子達にも分けているが、大小とりまぜに五十年から七十年程前のものなので、大変に軽く、しつとりとした墨色が美しい。

昭和三十五年頃、私は京都のある店で墨をみつけた。洪武十二年監製、目方百十二匁、程君房造と読まれ直径二十厘の円型の豪華な墨で、裏にはぎつしり漢詩が書かれ、表は中国の建物の図柄で、箱の中の墨拓には「外狩素心庵図說二見ユ」と書かれてある。

「十五万円です。」といわれ、引揚者で貧乏な私にはとても高嶺の花と思われたが、この機会をのがせば一生この墨は私のものにはな

らないだろうと、私は全財産の一萬円を渡し、その足で京都の友人に借りに行つた。友人は墨にそん

な大金を払うなんて、とあきれ顔であつたが、さすが「糸六」という老舗の若奥さんだけに気よく貸してくれ、そのお陰で今は私の第一の宝物となつた。

作品を書くたびに、ひとすり、何千円と身をすり減らされるおもいで使つてゐるのだが美しい円だつたのが、今は変型してしまつた。

十年前に京大の学者の方が、中国の宋時代の墨を科学的に分析して、十分の一の値段で外観そつくりの墨を作つたことがあつた。早く買つて使つてみたが、まるで感触も墨色も深みがなく駄目だつた。

墨には松煙と油煙とあり、燃やして採つた煤を膠で固めたものが墨となるのだが、木灰の中に埋めて水気をとり、二十日から一ヶ月は灰をとりかえながら乾燥さし、干し柿のように薬でくつて吊るし半月から三ヶ月かかつて完全に乾かすという、貴重なものである。

化学、文明の発達した現代でもこの何百年、何千年の歳月を生きてきた墨には兜をぬぐより他はなく、妖しい輝きを発する墨の世界に魅せられて今日まで生きてきた私が、出会いの貴さをしみじみかみしめている。



2月6日生田神社会館で開かれた美佐の会うたけで花魁道中に扮した一行

## お菓子づくりの大好きな 職人達の集まり



フーベ商店内



〈当店自慢・フリアンディーズ〉

ティータイムに気軽に添えて戴きたいフリアンディーズ。大切な方々への贈り物、おもてなしにご利用いただきたいと思います。地方発送も承っております。

(12ヶ 1,500円)

西洋菓子

フーベ  
*Fouquet's*

サロンド・テ・フーベ(中山手店) (9AM~9PM)  
神戸市中央区中山手通3丁目16番6号 ☎ 078-221-2290  
カフェド・フーベ(元町店) (9AM~8PM)  
神戸市中央区栄町通1丁目2番15号 ☎ 078-332-0678  
フーベ庵(鹿鳴山店) (9AM~8PM)  
神戸市中央区山本通4丁目22-28 ☎ 078-222-0707  
各店舗喫茶室を設けてあります。年中無休



## 店創りの第一歩は 信頼できる業者選びから

### 心の通う店創り

**nick**  
KOBE NAGOYA TOKYO

神戸日建

### 店舗設計施工・商業施設・調査企画

本社(設計室) TEL. (078) 252-1321(代)  
神戸事業部 TEL. (078) 251-3525(代)

このような時お電話ください。  
ご相談、プランニングは無料でお受けしています。

- 「店が古くなり、簡単な改装で時代にマッチしたものはできないだろうか」
- 「客層が変った。改装すべきだろうか」
- 「近くにテナントビルができた。出店したいが立地条件、営業面でアドバイスがほしい」

△その31▽

# 敦煌・莫高窟

板東 慧

(生活文化研究所所長)

昨年十月、中国西安からシルクロードを西へ敦煌に旅した。

敦煌は、いうまでもなく、未だ東西交易路が陸路しかなかった漢

から唐、宋代に世界で最も栄えた市

場都市の一つであった。「絲綢之路」の東の入口として、ここに

は碧眼紅毛の人々がキャラバンを

連ねて、宝玉や絹などを交易する

ためにひしめいていたといわれる

そのもとも盛んな四世紀半ば

から、鳴沙山の東岩壁に長さ一・

六糸にわたつたがたれた石窟寺

院—莫高窟が、いわゆる敦煌壁画



緑豊かなオアシスの莫高窟

莫高窟は、敦煌のまちから車で一小時間、ゴビ灘の一隅のオアシスに面しており、美しいせせらぎから直接、白楊やボブラなどが茂り緑豊かである。三危山と鳴沙山にはさまれたこのオアシスは、遠くからみても、まさかあのような珠玉の仏教芸術がかくされているとは思えない。風が吹くと鳴沙山の砂はサラサラと落ち、何年か放つておけば、莫高窟が砂の下に埋まつたとしても不思議ではない。

元代まで続いた莫高窟の造営は明代にはいって忘れられ、一九〇〇年王円篠が偶然に発見するまでその大半は砂の下に眠り続けていたわけである。王が発掘したときには、時の清政府も現地の行政官も関心をもたず、世界の探検隊がはり出して急速に保存の動きが起つたと伝えられている。スタイルやウォーナーなど欧米人が、切りとつて持ち帰つた壁画の跡が痛々しい。

敦煌の民衆は、昔から一年に一度、ここで香会なる祭を催してきただが、莫高窟の価値は必ずしも認証されていたとはいえない。しかし、インドの仏教伝来とともに移入されたこの石窟寺院という形式は、果して彼らが当時からにのぼる室数があつたといわれるが、現在までに四九二が保存されている。

莫高窟は、敦煌のまちから車で一小時間、ゴビ灘の一隅のオアシスに面しており、美しいせせらぎから直接、白楊やボブラなどが茂り緑豊かである。三危山と鳴沙山にはさまれたこのオアシスは、遠くからみても、まさかあのような珠玉の仏教芸術がかくされているとは思えない。風が吹くと鳴沙山の砂はサラサラと落ち、何年か放つておけば、莫高窟が砂の下に埋まつたとしても不思議ではない。

莫高窟の間に空港とホテルが建つておけば、莫高窟が砂の下に埋まつたとしても不思議ではない。

土地確保に問題はないが、気楽に積極的で、来年には敦煌のまちと莫高窟の間に空港とホテルが建たれられるという。広いゴビ灘の中で土地確保に問題はないが、気楽にいけるようになると、苦勞して辿りついて始めてわかるこの桃源郷の魅力が失われまいと氣になる。

厳しい自然と闘い、肥沃でない土地にへばりついて生きてきた民衆とこの美しい石窟は、その厳しい自然におかれ一段と光彩をなしているように思える。地域の文化は、その地域の背景を自らも体験して初めて理解の道が開けるのではなかろうか、とそのたたずまいを見て痛感したものである。

□連載エッセイ／私のひろいもの△35▽

# 老友

竹中

郁△詩人・絵も▽

アリスさん ルイゼさん

おぼえますか この歌を

大正五年の夏「お伽園」という名で

子供ばかりの旅行会が瀬戸内海を旅行した

備後の沖の朝げしき

阿武兎岬の観音やS字をなせる島の合

縫いつつゆけば尾の道市

瀬戸を出づれば呉軍港

要害かたき湾内に 見よや軍艦駆逐艦

威風堂々よこたわる

とつづいてゆくのだが

宮島や別府温泉 琴平神社

高松の栗林公園 屋島

よくぞまあ一週間からの旅を

たしか金十五円でつれていってくれた

物の安いころとはいえ

あんたら二人は レース織の服を着て  
まるで モンブランの雪といいたかった

そのモンブランの雪のポケットから

日本のちり紙がのぞいてみえていたのも  
おもしろかったのでおぼえている

あれから六十六年くらい経ったわけだが  
十銭だつた散髪料が二千三百円となつて  
今日の日本は世界の経済大国になつた

モンブランの雪はとけて

ライン川へ流れこんだか  
ドナウ川へ流れたか

杏として消息をきかない

神戸の裏山の外人墓地を

テレビがうつしだしているのをみて  
アリス ルイゼの二人を思いだした



連載エッセイ  
折々の神戸 (XI)



# 午後 心さわぐ

多田 智滿子（詩人）  
絵／石阪 春生

「ぬし：」というぐち話からはじまって、長々と女どうしのおしゃべりがつづいたが、やがて彼女はちょっとと声をひそめた。

——じつはヘンリックさんがつかまつてゐるの。私はぎくりとした。ヘンリックさんというのはワルシャワ大学の東洋学研究所の講師で、歌舞伎、

とりわけ鶴屋南北の研究家であり、先年、ボーランド首相来日の折も、ワレサ氏来日の折も、通訳として日本にきている。美智代さんの友人なので私の家にも彼女がつれて遊びにきたことがあるのだ。日本語に堪能なこのポーランドの学者と南北劇のグロテスク美学についておしゃべりをした記憶がまだなまなましい。

——どうして？やっぽりあれで？

——そうよ、あれよ。彼、ワルシャワ大学で「連帶」の活動家だったから。

まず最初は午後三時頃、麻布にアトリエをもつてゐる山本美智代さんからの電話だった。美智代さんは私の『鏡のテオーリア』という本の装丁をしてくれた画家——という以上に、つきあつて樂しい友人である。泥酔してタクシーから降りるのに顔からおりた、という武勇伝の持主で、もし神戸に住んでいたら、『神戸っ子』の酒徒番附の大関か関脇にランクされること疑いのない人物である。

昨秋父君を亡くされ、まだ喪中の身で、「このところろくな話がないのよ。友だちの親も次々死

日頃穴ごもりの熊のように無精たらしい顔つきで家にひきこもつて暮している私のような人間でも、たまには自分にかかる外界のニュースが耳に入つてくる。一月十二日の午後はめずらしく刺激的なニュースが三つ重なつて、私の心を波立たせた。

しかし逮捕というほどのことではなく、出頭命令がきて、出頭したきり帰してもらえない、という状態らしいが、それにしてもこれはちょっと胸の痛むニュースだった。

電話を切ったあとしばらく気になつて考えこんでいると、また電話が鳴つて、こんどは編集者I氏からである。私が昨秋白水社から上梓した『魂の形について』という小著に、Iさんの友人の舞踊家が興味をもち、蝶や鳥になつた魂をテーマに、ぜひ舞踊を創作上演したい、という話はかねてきいていた。きいていたどころではない。二月前に上京したとき、I氏にその舞踊家三浦一壮氏を紹介され、彼の主宰する舞踏社のために舞踊台本を書いてもらえないか、といわれていたのだった。

しかし私は舞踊のことは何も分らない上、以前にも『鏡のテオーリア』の鏡のイメージで演劇台本を作つてはしいと渋谷のさる劇場の支配人に依頼されながら、無能な上に無精なので、全く手もつけぬままお流れになつてしまつたという前科がある。だからこんども、翼を生やした魂のテーマで舞踊を、などと言われてもあまり気のりがせず、Iさんが電話をくれるまでほとんど思い出しませなかつたのである。

しかしIさんにあらためて口説かれてみるとやや心が動いた。台本といつても戯曲のように科白があるわけではないから、簡単な筋書だけ作つてくれたらいい。『魂の形について』の中には、日本、中国、ギリシャ、エジプト、インドと、あまりにも多様な魂の相がとりあげられているので、どうまとめるか、むずかしくて困っている。ぜひ私に

形をつけてほしい——Iさんのやんわりじわじわした説得に私はとうとう重い腰をあげる気になつた。筋書だけ、作つてみましよう、あとはそれを叩き台にして、皆さんで考えてみて下さい、と。

その電話を切つたのがもう夕方だったが、私はボーランド問題やヘンリックさんのことはひとまず頭の隅つこに片づけておいて、八尋白智鳥になつた倭建命のことだの、蝶の形をしたギリシヤのプシュケー（魂）のことだの、舞踊家の姿と重ねあわせて考えながら、庭に出て黄昏の冷気を吸いこみ、夕刊をとりいれた。そしてうわの空で新聞をひろげ、死亡欄に目をやつたとき、十河嚴氏という親しい名が、ちょうど眼圧検査のときのようないやな瞬間的圧力でぱッと瞼めがけてとびこんできたのである。

終戦後の混乱期に大阪朝日会館の名館長であった十河氏のことは御存じの方も多いであろう。しかし私が知つてるのは、引退後、気楽に画筆をとつたり、散歩の途すがらぶらりと私の家へ遊びにこられる「近所の御隠居」としての十河さんである。私の息子が幼いころ顔をスケッチして下さつたこともあつたし、とりわけ、氏の愛孫容子ちゃんと私の娘とが小さいときから仲好しだったので、子供を通してなおさら十河さんには親しみを感じていた。ベレー帽の下から髪をもしやもしやはみ出させて散歩される姿を近頃みかけない、と思つていた矢先のこの訃報だった。

ヘンリック氏拘留に、「魂の形」の舞踊に、そして十河氏の死。なんという日だ。私は食事の支度をする元気もなく、薄暗がりの中にしばらく坐りこんでいた。